

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700375		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	福島県須賀川市東作22-8		
自己評価作成日	平成27年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「繋がりが」です、ご家族や地域の方々は勿論ですが今年には地域におけるグループホームの役目として地域に方々が困ったことがあったときに頼れる場所になることを大きな目標とし今年はその1歩として地域の一人暮らしをされている方々の会と顔見知りになるために話しをし「すずらん芋煮会」に参加して頂いています。また、誕生会をこれまでのグループホーム主体で作ってききましたが「誰にお祝いで頂くのが入居者にとって一番大事なのか？」をもう1度考えて少しずつではあるがご家族様が主導して頂けるような誕生会を開いています。・99歳の誕生日を迎えた方はご家族が司会をし楽器の生演奏をし祝って頂いています。・入居者がパン好きの為、誕生日のケーキは入居者さん・娘さん・お孫さん・曾孫さんと共にサンドイッチをケーキみたいに飾りつけています。そのために職員はご家族とよく話し合

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

10年以上の実践の積み上げによる、ケアの質の高さを感じさせる事業所である。様々な機会をとらえて、入居者の意向をかなえようとする姿勢があった。また、2棟目を建てる際には、1棟目の実践を踏まえて、入り口を使いやすくしたり、共有空間の和室スペースの配置や浴槽の配置など工夫がみられた。職員と管理者や法人との間で意見交換しながら、運営にあたっている様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は内容の熟知・共有はまで至ってない。法人では地域の方々に認知症の理解を広めるために講演会を開いたり、事業所では入居されている方々の行きつけの場所や町内会との相互の関わりを続けています。	日々のかかわりの中でも、できる限り本人の想いを引き出し、かなえられるように努めるなど、理念の実践を目指している。また、掲示場所に関しては、再考中で、より見やすい場所にしたいと考えているとのことであった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回しに行き挨拶などしています。町内会牡丹会の行事に参加したり、すずらんの行事に参加して頂いている。管理者は町内会に参加する時もあります。	これまでも行事に地域住民を招待してきたが、準備のところから関わってもらう形に変え『参加』してもらうようにした。また町内会の老人会にはホーム入居者のための席が用意されるなど、参加するのが当然になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が主催し地域の方々向けに講演会を行っています。また法人の副理事長は認知症指導者として福島県内外で講習・研修などを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員も出席し地域の方々には日常生活の写真などを通してコミュニケーションをとっています。またひまわりの会(地域の一人暮らしの方々)の紹介もあり、入居者と顔なじみの方との関係が再構築されています。	ひまわり会の存在を知り、芋煮会に参加を呼びかけたところ、近隣の顔なじみの方がメンバーとわかった。この方が、入居者が所在不明になった際に気づいて、手をつないで連れ帰ってくれたということである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し「SOSネットワーク」にて地域の高齢者・事業所入居者の安全な生活を守るための活動を行っています。又、認知症サポーター養成講座など企画・協力をしています。	SOSネットワークは立ち上げ時より関わっている。また、市主催で講演会を開催する際の協力や、認知症フォーラムの開催の協力を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外(職員が1人になる夜間のみ安全を確保する)は施設内の施錠はせず入居者の出入りできる状態である。またベットの柵・座る場所等入居者が自らの行動を妨げないように配慮しています。	車いすに座らされればなしも拘束になるということから、必ず椅子に座りなおしてもらおう対応ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で1年をかけて行っている内部研修において「職業倫理」の観点よりの講習を職員全員が受けている。研修の初めに行う課題に対する発表にも「倫理的」なものが含まれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の理事長が「成年後見制度」を行ってまいして法人内の研修を通して理事長より職員へ学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または入居直後などは理解できていない情報もあるので、ご家族には管理者・職員共に話す機会を増やしています。又変更の際は直接のお話し・文章・電話等を含め説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、年に1回家族会を開催し意見交換をしています。又、年に1度行われている家族満足度アンケートにおいてご家族の意見を頂き、意見に対して改善事項をご家族に送っています。	毎日妻へプリン等を食べさせている家族から、「他の入居者に悪いのでは」という話を受け、他の方の視野に入らない場所に案内したり、夫の車を見かけたら自室に戻ってもらうなどして、気持ちよく過ごせるよう配慮した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度「職員面談」が行われています。その時に出た意見の緊急性が高い物・必要なものなどを優先に対応・購入などしています。管理者などにはその都度話しやすい状況になっています。	日頃から職員は管理者に話しやすい関係が構築できている。新入居者の状態に合わせて物品を提案するとすぐに購入したり、共有空間の乾燥を指摘すると、強力な加湿器の設置を上申し、対応するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内外の研修や手当等の配慮されています。また、年に1度「自己評価」を記入し挙げていることで職員個々の状況・思いなどは伝わっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関して勉強会や外部の研修参加などに積極的に奨励しています。今年度も認知症連合会、東北大会の発表にも職員が出ており発表に向けての資料作成においても工夫やアドバイスを頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の事業者と交流する機会は県内を留まらずに県外・国外まで多く作っています。参加している職員は全てまで入っていませんが様々な影響を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	バイステックの技法を活用し寄り添って関係を築くようにしています。知り得た情報には即座に実践もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から入居後もご家族の思いを聞きケアプランに反映させています。又、面会に来やすいように事業所に来た時はお茶を飲みながら話をしたり、ご家族の思いを聴きやすい状況作りもしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点で必要とされるサービスに選択肢を加えての対応はできてはいませんが、以前利用していたデイサービス同じ敷地内にあるので馴染みの場所として遊びに行ったりお茶に行ったりとしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々に「してあげる」だけにならないよう、入居されている1人1人の力を見極めて入居者の動きを「見守り」入居者の意欲を引き出すための「準備」を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在ホームでは、毎日入居者とお茶を飲んでから仕事へ行くご家族・3日に1回は訪ねてきてドライブを行うご家族もいますまた、遠方のご家族でも10日に1回は電話などで入居者の状況をお伝えなどもしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の故郷の温泉に行ったり、若い時に働いていたパン屋に買い物に行ったりと入居者それぞれの思いがある場所にできるだけ出かけています。	入居者が以前住んでいた場所へドライブし近隣の方と交流する機会を作ったり、美容院や商店などは馴染みのところに出かけている。また、希望を聞いて、なじみの寿司店から出かける代わりに出前をして貰ったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いに好きな歌や買い物などを通して関わりあえるように努めています。入居者が入院した時なども皆で回復を願って鶴を折ったりしたり退院を皆で玄関で迎えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族が運営推進会議に出席しています。またその方がほかのご家族の悩みを聞くなどされており。ご家族本人も「私が役にたてるのがうれしい」と話しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からの言葉をよく聞く事・また状態が変わっても以前の生活での言葉や表情が良いときなどの情報を職員間・ご家族と共有し支援しています。	まだ十分に入居者のことが理解できない際に、職員会議で情報を共有し、その中から本人の興味や喜ぶことを明らかにし、ケアの場面に取り入れた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されている方々の暮らしてきた家や地域に職員が行き出会った方々と話しをしたり入居者の生活がイメージしやすいようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の身体状況を見るためのバイタル測定から始まり、1日1回でも入居者それぞれに生活の中で関わりを持つようして歩行や食事などからも変化をとらえるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が基本となり入居者の状況・情報を集めまとめしていきます。また本人の生活の中からの言葉やご家族と話し合う時間を作っています。その中でケアプラン作成を行っています。	職員間で情報を共有しケアに生かすことはできている。しかし、この個別の支援の経過や中身が、個人記録に十分に反映できていない。そのため、ケアプランが後追いになっている例があった。	実践できているケアが、業務日誌やノートといったところに記録されているだけであることが残念であった。個別ケアの記録を財産として残せる仕組みを考えていってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者に対して行ったことなどはケース記録に記入し、日誌にて皆の目に付くような形にはある出勤時に確認しています。が1人の入居者に対しての職員間の共有や実践は出来ていない部分もあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居されている方が以前敷地内にあるデイサービスに通っていた為にデイでご飯を食べる事もあります。無理に戻さずに夕食の準備などから参加してもらうように実行することもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源という言葉に戸惑ってしまうが入居者1人1人を支えている生活した場所・好みの食事・店などは職員それぞれが理解しており、外出や外食または趣味としても活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関してはご家族の希望。本人の馴染みを最優先しています。また身体状況の変化から最優先事項を確認したうえでかかりつけ医の変更を行っています。	入所前からのかかりつけ医に継続している。長時間の検査時などを除いてほぼ職員が同行し、情報共有はできている。また看取りの時期など、かかりつけ医の体制によっては変更を検討することもあるとのことであった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所では週に1度、法人内の看護師が健康チェックに来ており。その際に気づいた点を看護師から、職員からと情報を交換しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時には現状をご家族と確認し、これからの展開を図式などでわかりやすく説明しており、最優先事項の問題が解決した段階ですぐに退院できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の段階で「今、思っていることで良いので」と看取りに対しての書類に記入をして頂いています。又状況がターミナルになる少し前からご家族とは図式をまじえ看取りに対しての対応・思いを摺り寄せる事を行っています。	重度化・看取りの指針の定めに沿って、入居時にまず覚書を記入してもらい、実際に重度化または看取りの時期になった際には、その内容を尊重しながら、話し合いを重ねている。その中で、当初の希望に固執せず、柔軟な対応を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での研修で緊急時における「AED」の使用方法や入居者の喉に餅が詰まったときの対処方法などを受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は大・小と年に4～5回は行っています。また以前緊急避難先として地域の集会所を借りることができるようになっていた。また法人で災害対策委員会を設置し災害時の必要物品の確保などにも努めています。	夜間想定訓練や、消防署立会いで発煙筒をたいた訓練も実施できている。また、災害対策委員会で備蓄品の内容を見直し、対応が完了した。また今後、ライフラインが止まった想定訓練を予定している。	現在は火災を想定した避難訓練しか実施していない。今後地震やがけ崩れなど他の災害の想定や、発災時間・季節による影響についても検討を重ねてみてはいいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに行くときの声掛けを声の大きさや内容などを入居者それぞれに合わせています。トイレには行っている時も本人の目に線に入らないように見守りをしています。	トイレ誘導の際に『散歩に行こう』と声をかけ、その途中でトイレに寄って行こうと声をかける工夫をしている。またトイレ使用時には、ひざ掛けをかけて、陰部を見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が帰宅したいと外に出られたことがあり一緒に自宅へ行く事で表情が穏やかになり笑顔を観られたことがあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が外へ出て行ったときにも、すぐに呼び止めることなく様子を見てみます。または「お出かけ」と話してくるならば「ちょうど買い物に行くところ」と一緒に行けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出の際は着る服をいくつか見ていただき選んで頂きます。また起床後には洗顔・整髪を行っている。行事の時などは着る服や化粧を行うなど特別感を持てるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行ったり、買い物に行ったときは食べたいものを選んで頂き食事にとりいれる事もしています。また、下膳から食器洗いを一緒に行ったりもしています。	軽度者が多いユニットでは夕飯の献立を入居者と一緒に立てたり、その店先で献立を考えたりしている。両ユニットとも配下膳や洗い物に参加する方も多い。また食事中には、タイミングを見て声がけしたり、介助していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日にさいてい1000ccを目安に摂って頂いています。足りない時などは本人好みに形や品を変えています。また食事を食べやすいように大きさや盛り付けなどを工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	トイレに行くときの声掛けを声の大きさや内容などを入居者それぞれに合わせています。トイレには行っている時も本人の目に線に入らないように見守りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者が帰宅したいと外に出られたことがあり一緒に自宅へ行く事で表情が穏やかになり笑顔を観られたことがあります。	入居時にはオムツ使用であっても、排泄表を使用してパターンをつかみ、トイレ誘導するなどして、布パンツに移行した方が多数いる。特に排便に関しては、落ち着かない態度などから読み取って、介助し失敗を防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人が外へ出て行ったときにも、すぐに呼び止めることなく様子を見てみます。または「お出かけ」と話してくるならば「ちょうど買い物に行くところ」と一緒に行けるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	起床時や外出の際は着る服をいくつか見ていただき選んで頂きます。また起床後には洗顔・整髪を行っている。行事の時などは着る服や化粧を行うなど特別感を持てるようにしています。	午後から希望者には夕食後までの時間帯で、入浴できる。身体状況が悪化した方へも介助者複数で対応したり、補助用具を用いて、対応できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一緒に買い物に行ったり、買い物に行ったときは食べたいものを選んで頂き食事にとりいれる事もしています。また、下膳から食器洗いを一緒に行ったりもしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	水分は1日にさいてい1000ccを目安に摂って頂いています。足りない時などは本人好みに形や品を変えています。また食事を食べやすいように大きさや盛り付けなどを工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒なども含め本人の気持ちを最優先に考えた支援をしています。季節柄の事や折り込み広告の内容など様々なところから入居者の方々の笑顔をつくる支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬の時期は少なくなるが、1年を通してはほぼ毎日何かしら出かけている。また入居者の方々の思いの場所に行きたい(遠方)の時にはご家族の協力も得て計画を立てて出かけています。	チラシを見ながら興味を持っていただき買物に誘ったり、「～が欲しい」と言われた場合には、一緒に買いに行こうと、様々な機会をとらえて外出している。また、自宅やなじみの場所へドライブしたり、季節によって近隣の公園などにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中では2人の方がお金を持っています。また本人が所持できていなくても買い物の際など購入できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人に電話がかかって来たりする時は勿論、事業所にかかってきたときにも出来るだけ入居者本人にも出て頂く要にしている。また携帯を所持している方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	匂いの中には嫌な気持ちにさせてしまうものもあるので気を使っています。入居者が迷ってしまう場所などには表示がしてあります。季節ごとの飾りつけも行っています。	排泄物のおいが共有空間に流れないように、対処に留意している。 ひな飾りなど季節感を取り入れたものが置かれ、またソファやテーブルなど、工夫して配置されていた。天井が高く開放的で快適に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の馴染みの場所が出来ており、基本はその空間を活用しています。が和室などは使用しない物が置きっぱなしになっているために使用できない時があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族の方には「馴染みの物を」と相談をし出来るだけ自宅と変わらない物や配置となっています。	使い慣れた鏡台やタンスを持ち込んでいる方や、自室を模した配置など、各部屋には個性が感じられた。畳に布団を使用している部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物などが通路に置かれていることもあり安全面で配慮しなければならない部分がある。が、居室よりトイレまでの道のりを本人の生活歴に合わせた表現で居室前に掲示しています。		